

**製品名: KCNQ5 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12949**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	100-110kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KCNQ5
別名	KCNQ5; Potassium voltage-gated channel subfamily KQT member 5; KQT-like 5; Potassium channel subunit alpha KvLQT5; Voltage-gated potassium channel subunit Kv7.5
遺伝子 ID	56479.0
SwissProt ID	Q9NR82
免疫原	抗血清はヒト KCNQ5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 637-686

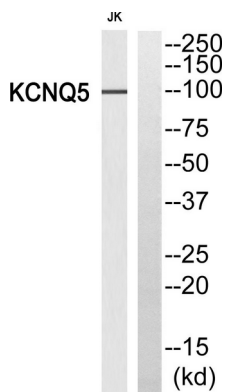
**背景**

この遺伝子は、脳のサブ領域および骨格筋で異なる発現を示す KCNQ カリウムチャネル遺伝子ファミリーのメンバーです。この遺伝

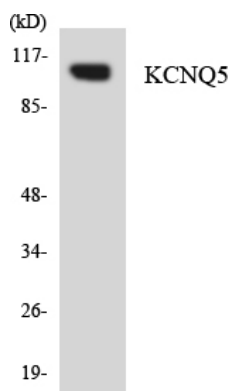
子によってコードされるタンパク質は、脱分極を伴ってゆっくりと活性化する電流を生成し、KCNQ3 遺伝子によってコードされるタンパク質とヘテロ多量体チャンネルを形成できます。このタンパク質から発現される電流は、M 電流と同様に電圧依存性および阻害剤感受性を示します。また、M1 ムスカリン受容体の活性化によっても阻害されます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2009 年 5 月]、ドメイン：セグメント S4 はおそらく電圧センサーであり、3 つおきに正に帯電したアミノ酸の連続が特徴です。機能：神経興奮性の調節におそらく重要です。KCNQ3 と会合してカリウムチャンネルを形成し、M 型電流に寄与する。M 型電流は、ゆっくりと活性化・不活性化するカリウムコンダクタンスであり、ニューロンの閾値下電気興奮性を決定する上で重要な役割を果たしている。他のカリウムチャンネルと共に、この生理的に重要な電流の根底にある、運動学的および薬理学的特性が異なる M チャンネルの不均一な集団の分子多様性に寄与している可能性がある。テトラエチルアンモニウムには感受性がないが、バリウム、リノピルジン、XE991 によって阻害される。ニフルム酸および抗けいれん薬レチガビンによって活性化される。ムスカリンは、クローン化された KCNQ5 チャンネルを M(1)ムスカリン受容体と共発現させたアフリカツメガエル卵母細胞において KCNQ5 電流を抑制する。類似性：カリウムチャンネルファミリーに属する。KQT サブファミリー、サブユニット：KCNQ3 とのヘテロ多量体、組織特異性：脳および骨格筋で強く発現する。脳では、大脳皮質、後頭極、前頭葉、側頭葉で発現する。海馬および被殻では低レベル。延髄、小脳、視床では低レベルから検出限界以下。

## 研究分野

## 画像データ



KCNQ5 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは KCNQ5 ペプチドでブロックされています。



KCNQ5 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。